

五臓圓ビル再生プロジェクト

主任研究員 倉持裕彌

1. 事業の背景

このプロジェクトは、鳥取市の中心市街地に位置する智頭街道商店街を活性化するために、商店街にある歴史的建造物を再生し拠点化するものである。

- 2008年度に行った智頭街道商店街調査事業（委託事業）からの継続で、五臓圓ビル再生プロジェクトにかかわる。
- 2009年度より、「五臓圓ビルを保存活用する会」活用委員会委員長に就任し、活用に関して企画提案を行う。2fのカフェ・ギャラリー利用、3fの鳥取大学利用などを決定。
- 2010年度は、経済産業省の補助も決まり、プロジェクトの主たる担い手が、事業主体「まちづくり株式会社いちろく」となってきたので、活用委員会の役割は相当縮小した。

2. 事業内容

2. 1 若手アーティスト集団「casoca」によるアートイベント「art gocco vol.01」

- 五臓圓ビルで実施。企画段階から意見交換を実施し、当日はトークイベントにパネラーとして出席。

2010年5月に実施されたイベント。Casocaは、鳥取県出身で、都市部で活躍する若手のアーティスト集団（<http://co-chi.blogspot.com/>）である。イベントの目的は、五臓圓ビルの持つ雰囲気と若者のエネルギーと表現力を組み合わせ、多くの人にビルの可能性を感じてもらい、商店街の活性化につなげることである。

2. 2 ナイトカフェの実施

- 中心市街地活性化協議会事務局発案の事業。2010年度は活用委員会で引き受けた。

五臓圓ビルを利活用する具体的方法としてナイトカフェを実施。夜間にビルを開放し、コーヒー、スイーツなど飲食の提供と、ビルの見学、解説、薬膳講義などの小規模イベントを組み合わせた。

活用委員会では、既存の市民グループと五臓圓ビル再生プロジェクトの連携を



イベントを伝える記事

日本海新聞2010.5.5紙面より

めざし、UJIターン者によって構成される「ふるさとUI会」を対象としたナイトカフェ（この会は昼間開催）を実施した。思いもよらず、活発な意見交換と募金も含めた具体的な支援を得られた。

3. 成果・評価

五臓圓ビル再生プロジェクトは、ひとまず2011年3月のリニューアルオープンに向けて着実に動いている。国有形登録文化財としても認定されたことで、文化財としての価値も知れ渡るようになってきている。当初からプロジェクトに携わった立場から見れば、この2年で、当初想定したレベルまで認知度を高めることができた。

難しいと感じるのは、プロジェクトが課題に直面しているような場面で、とっとり総研がどのように関わっていくか、といったケースである。これは臨機応変に対応するしかないのだが、今後の課題として検討するために、多くのケースを蓄積していきたい。



昼間に行われた「ふるさとUI会」とのナイトカフェ